

平成28年度みやぎきの文化を考える懇談会（第1回）議事録

- 1 日 時 平成28年8月25日（木）14：00～16：00
2 場 所 宮崎県庁附属棟305号室

<主な意見>

- アンケートでは子どもが文化に触れる機会を望む声が非常に多く、宮崎市ではふるさと先生等の取組で触れる機会は増えているが、現状では学校で音楽や美術の時間が減っており、子どもたちが文化芸術にかかわる時間が少なくなっている。
- 経済的な問題等、子どもたちの間にも文化的な格差があり、学校で文化芸術に触れる機会がなければ家庭ではなかなか触れられない状況というものがある。
- 外国人観光客が県内でも増加しており、多言語対応や展示方法の工夫をするなどの対応が迫られている。
- 教員が学校教育の中で文化施設を活用する機会を設ける必要がある。
- 教員やボランティアを含め地域の歴史や文化を子どもたちに指導できる人材を育成することが必要。
- 民俗芸能団体が自立的に継承活動を行うには民間だけでは難しいので、行政が補助金の獲得方法のアドバイスや運営面など、少しでもよいので後押しして欲しい。
- 文化イベントの運営をするための専門家の指導が受けられるとよい。
- 行政が運営資金の獲得方法など、企業と文化活動の間をつなぐ役割を担ってもらえるとよい。
- 県民が日常的に文化を親しむためにも、それを下支えするためのプロのアーティストを育てていく土壌が必要である。
- 学校の公演に地域の人にも参加してもらえると家庭まで文化芸術の良さが伝えられる。
- 教育現場でのワークショップなど、県内在住のアーティストのスキルを活かすための企画を作って欲しい。
- 異なる分野とのつながりを持つことで、さまざまな人脈が増え、地域や活動で生かせる情報が入ってくるようになる。
- 深く探求し、そこから探求して作り出すような努力していく中で、この全体の施策の屋台骨みたいなものができてくると思う。
- 県内の若手作家は、県立美術館で採り上げられることで、それを足がかりに芸術家として成長していけるので、若手作家に対する支援をお願いしたい。
- 文化施設間で統一したわかりやすいパンフレットなどがあると、他の文化施設にも足を運びやすい。
- 文化は長い目で見て、文化の質というものをもう少し考えてもらえばいい。文化が経済力を生むというのは重要なことだが、経済のための文化になると本質を見失っていくので、ただ人を呼んでくれればいい、経済効果があればいいのではなく、美術の本質のところをもう少し考えてほしい。
- ふるさと納税を文化事業での活用ができると、事業予算の獲得に加え、PRにも繋がる。